

足立税務署長賞

「世界を助ける日本の税」

足立区立 渕江中学校

三年 鎌田 結菜

テレビを見ているとウクライナのニュースが流れてきた。普段なら聞き流してしまうが、なんとなく気になり見ていた私は衝撃を受けた。「ロシアによる軍事侵攻で、ウクライナの国土の約四分の一に地雷が埋められている。その被害は兵士だけでなく市民にもでており、六月下旬までに地雷等による死者は二百九十八人、負傷者は六百七十六人にのぼる。」という。私はこのように無差別に被害を与える対人地雷に対し恐ろしいと感じると同時に、こういうことが世界で起きているのはとても悲しいことだなと思った。全ての地雷除去にかかる時間は数百年に及ぶという試算もでている。その間ウクライナの人々は常に命の危険を感じながら生きていくのだろうか。日本に暮らしてて私たちには想像もつかないが、これは現実に起きていることだ。何か私にできることはないだろうか。そう思っていた時にこの税の作文の宿題が出された。

私は税のことあまり知らなかつたので国税庁の税の学習コーナーというサイトを見て学んだ。すると歳出の〇・四%、およそ五千四十一億円が政府開発援助（ODA）に使われていることが分かった。日本のODAはウクライナに対し、レーダーで地中の様子が分かる高性能の金属探知機や短時間で除去ができる大型地雷除去機といった先進的な機材の提供をはじめ、ウクライナの地雷除去の作業員を地雷の被害が長く続くカンボジアに招いて

技術を伝える研修を行うなど、主導的に支援を行つていた。O D Aはウクライナだけでなく開発途上国の経済的・社会的発展、福祉向上に貢献することを目的とし、技術協力や資金提供を行い、多くの人々を助けている。

しかし、今日日本は歳入が不足しているため公債金で賄つている。なぜ公債金残高が増えているこの厳しい状況の中でも経済協力を行い続けるのだろうか。

調べてみると、O D Aのメリットは感染症や地球温暖化などの地球全体の問題の解決、食料やエネルギーの安定的な確保、日本に対する信頼の高まりなど多岐にわたることが分かつた。つまり、途上国の平和や経済発展を支援することは、日本の安全や繁栄を守るのに役立つのだ。

私たち国民が豊かで安心・安全な生活を送るために使われている「税」。私はこの作文を通して、税は国民のためだけではなく、世界の人々のためにも使われていることを知った。O D Aに使われている費用は歳出のほんの一部だが、私たちが払っている税金が今苦しんでいる誰かの役に立つている。そう考えると、税は私が世界の人に貢献できる一番身近で重要なものだと思う。だからこそ私は、大人になつた時も日本や世界そして自分のために、責任を持つて税を納めたいと思う。